

安曇野市中学生議会

中学生の考えを協働のまちづくりに生かす

安曇野市内の中学校7校 代表25名
穂高東・穂高西・三郷・堀金・豊科北・豊科南・明科 中学校

安曇野市では3年前から毎年、中学生の考えを協働のまちづくりに生かすため、「中学生議会」を開催しています。平成27年度は、市内の中学校7校から2年生の男女(1人ないし2人)、計25名の代表が5つのグループに分かれ、安曇野市の現状や今後について学び、本議会で提言しました。

本会議のために5つのグループに分かれ、安曇野市の行政について学びました

- ①福祉グループ (高齢者福祉、健康増進、介護保険など)
- ②安全・安心グループ (環境、街並み、道路、上下水道など)
- ③産業グループ (農業、商業、工業、観光など)
- ④教育グループ (学校教育、生涯教育など)
- ⑤まちづくりグループ (財政、総合計画、協働など)



市長さんや担当部長に大切な問題だと答弁して頂き、とてもうれしく、達成感が感じられました。

3回の学習会で各課の担当職員がテーマごとに、市政の現状と今後の考え方について説明。

私たちの提言

こんな提言もしました!

部活動を充実するための仕組みづくりを!

子どもの学習支援の場を!

森林保全を観光客にもPRする

特産のワサビで産業振興を!

児童虐待や高齢者の孤立化を防ぐための交流施設の整備を!

空き店舗を活用した商店街の活性化や企業誘致を!

安曇野市 市民生活部地域づくり課 宮澤 万茂留 さん

これからは市民も行政も役割分担を明確にしなが、それぞれの責任を果たすまちづくりが求められています。「協働」がキーワード。そういった意味で、中学生にはまず課題をみつけてそれを自分だったらどうできるのか考えてもらう機会になればと思っています。

中学生議会では、大人の常識を超えた純真な発想が出てきて、当たり前のようなことが斬新に見え、私たちが勉強になります。

主役は中学生。参加してよかったと思えば一番ですね。議会での経験を生かし、活動されることを願っています。



中学生議会 日程 (平成27年度)

- 4月 市から学校に事業説明 議員(参加生徒)選出
- 5月 第1回学習会、議長選出
- 7月 第2回学習会
- 8月 第3回学習会 各議員質問作成 校長先生による内容指導
- 9月 市担当課へ質問提出
- 10月 リハーサル
- 11月 本議会



参加した中学生議員の感想

- 私が提言したこと以外にも、他の人の提言を聞いていると、なんだか安曇野市の未来がよりよくなっていく気がしました
- 自分のふるさとであったはずなのに、知らない事の方が多いのだと気づき、驚きました。
- 他校との交流も出て、安曇野市のことをみんなで考えあう貴重な体験が出来てよかったです。
- 人それぞれで考え方が違うのが印象的でした。
- 中学生が地域のためにできることもたくさんあると思うので、その自覚を持ちながら生活していきたいと思います。
- 自分の手でこの市をほんの少し良くてきた。そんな気がしました。

これまでの中学生の提言内容から反映した事業です (一部)

- 「文化振興」……市立美術館・博物館「年間行事ガイド」を作成し、学校を通じて小中学生に配付。
- 「議会広報の充実」……議会ホームページで、本会議のライブ配信に加え、録画配信を開始。
- 「交通マナーの向上」……小中学校に自転車の安全利用を促すパンフレットの配布、体験型交通安全教室の開催 などなど



協力：信濃町立信濃小中学校、安曇野市立豊科南中学校、信濃町、安曇野市

発行日：平成28年1月20日 発行：社会福祉法人 長野県社会福祉協議会 地域福祉部 ボランティア振興グループ
〒380-0928 長野市若里7-1-7 TEL.026-226-1882 FAX.026-228-0130
E-mail vceneter@nsyakyo.or.jp URL http://www.nsyakyo.or.jp/

中学生ボランティア新聞 ふろく

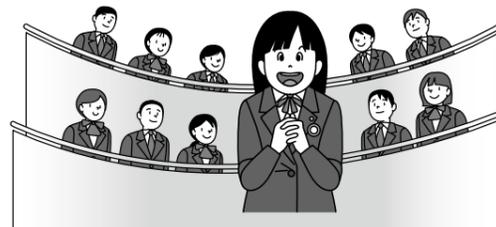
私たちの思いをまちづくりに

*本紙の特集事例をよりくわしく解説！あわせてご活用ください。

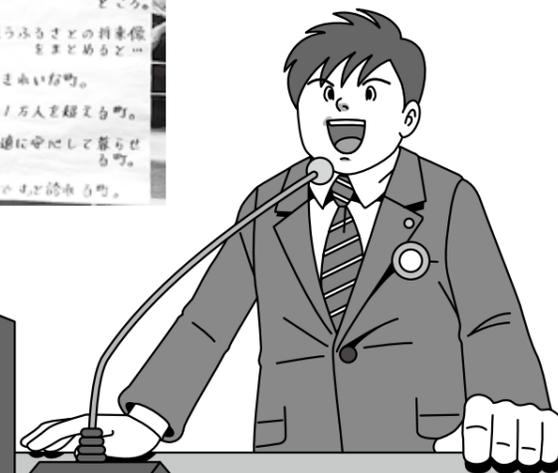
先生方へ
やまびこだより
No.139
今号の特集から

中学生がまちの議会で提言しました!

こども議会(中学生議会)の事例から



質問者席



事例の概要

子ども議会の役割 協働のまちづくりのために

県内各地の市町村では、子どもの視点でまちづくりへの提言を行う「子ども議会」(中学生議会)を行っています。対象は、小学生から高校生にわたる議会もあれば、中学生のみの参加など、自治体により様々です。担当部署も広報課や議会事務局、地域づくり課など各市町村により特色があります。

安曇野市では中学生の視点を協働のまちづくりに生かすため、市内7校の中学生を対象に3年前から「中学生議会」を開催しています。中学生議事を担当している「地域づくり課」のテーマは「協働」。「自分だけではできない部分をお互いで補い合っていくことが協働の原点。」と話すのは、地域づくり課課長の宮澤万茂留さんです。

「中学生には気づいた課題に対し、

自分だったらどうするのかを考えてもらう機会にしてほしい。その結果、安曇野がより一層好きになったり、今後地域に携わっていくことに繋がれば嬉しいですね」

中学生議会をとおして自分たちの住むまちを知ることで今まで気づかなかったまちの魅力を再発見でき、今後のまちづくりに主体的に関わるきっかけとなっています。

「ふるさと学習」の集大成として

信濃町の信濃小中学校では、9年生が「ふるさとと共に生きる、ふるさとのために私にできること」をテーマに1年間学習をしてきた集大成として、「信濃町子ども模擬議会」で発表しました。

事前学習として、役場の方や地元の脚本家、県外から移住してきた方など様々な方から「ふるさととはなにか」をテーマにお話しをしていただき、ふるさと

とに対する想いや地域を元気にするための取り組みなどをお聞きしました。また、保護者の皆さんにもふるさとに関するアンケートを実施し、ふるさとに対する意識をデータとして見える化したりと、事前学習をとおして町をよりよくするために自分たちにはなにができるのかを考えました。

「そんなのダメ、できっこないと否定するのではなく、子どもの自由な発想に任せようという気持ちを大切にしています」という担当の馬島敦子先生。子どもならではの発想が、大人には気付かなかった視点に気付かせてくれます。「学習が進むにつれ、子ども自身も自分のこととして考えていく。やっぱり「ふるさと」なんだなと思います」

自分の生まれ育った「ふるさと」について考えることが、地域をつくる一員である自分自身と向き合う時間にもなっています。



9年生が1年間のふるさと学習を通して「もっと信濃町をよくしたい」という思いでまとめた内容を発表しました。

ふるさと学習のテーマ

「ふるさとと共に生きる」 ～ふるさとのために私にできること～

学習の流れ

テーマが決まるまで……

1 「ふるさとについて」のアンケート

ふるさとについて考えてみよう
生徒と保護者へのアンケート

- 町のいいところ、足りないと思うことは？
- 次世代のために残したいもの、大切にしたいものは？



2 学習会・交流会

ふるさと映画会「ふるさとがえり」鑑賞
脚本家 栗山宗大さんとの交流会

地域講師を招いての学習会
「信濃町で起業することの魅力と課題」

「信濃町長期振興計画」についての学習会
「癒しの森事業」「町づくり計画」について



信濃町子ども模擬議会

「ふるさとと学習」の成果を まちの議会で提案しました！

信濃町立 信濃町小中学校 9年生

*信濃町小中学校は、小中一貫校です。

「子ども模擬議会」は、次代を担う子どもたちに、町づくりに関心を持ってほしいと、信濃町の町議会が実施。真剣な質疑と答弁が交わされました。



議長が議事進行

進行は町議会の会議次第に準じて行われました。



役場の議場に初めて入り、「〇〇議員」と呼ばれて、ドキドキ……！グループの代表が町長に質問したり、提言をしたりしました。



議事録署名議員



町長さんもういぬいに答弁。

子ども模擬議会

こんな提言も
しました！

仮想姉妹都市と提携を！

仮想姉妹都市と提携し町の知名度を上げれば、観光客が増え、移住者も増えるのでは……

私たちの提言

- 旧小学校跡地に宅地を造成し、定住者を増やす商店街の活性化を！
- 旧小学校を図書館に！
- 病院を健康増進の場に
- 森林の手入れをし、景観を高める
- ゴミのない町にするためにペットボトルを鉢植えを作り、花を飾ったらどうか

私が願う「ふるさと」信濃町の将来像

- 新しいお店や家ができて、森林はそのまま残っている町
- スポーツが盛んで、健康な町
- 交通の便がよく、買い物に便利な町
- 人口が増加し、にぎやかな町
- 安心して豊かな町
- 誰でも気軽に訪れることができる町



6

まちの議会で提案

リハーサル

6班に分かれ模擬議会に向けて準備

個人の課題をまとめグループ分け

- ①信濃町のことをPRしよう
- ②信濃町の観光産業を発展させよう
- ③信濃町の自然を守り活用しよう
- ④信濃町の施設を有効利用しよう
- ⑤信濃町の特産物を使った名物を作ろう
- ⑥ボランティア活動を広げよう

3

「私の課題」づくり

テーマ「ふるさとと共に生きる
～ふるさとのために私にできること～」

- ①私にとっての「ふるさと」とは
- ②私が願う、ふるさとの将来像は
- ③ふるさとのために私が取り組みたい課題

取り組みたい課題

- ・なぜそれが必要なのか、
- ・具体的な手立てや方法、ビジョン
- ・ずっと語り続けたい町にするために、持続可能な方法は？

4

訪問学習・調査学習

調べてみよう 聞いてみよう 見学してみよう！



地域の方、観光客、役場や施設にでかけてインタビューしたり、ゴミを拾いながら調査をしたり……。

5

プレゼンボードにまとめて発表

私の提案 NさんとAさんの場合

信濃町の特産物を使ったメニューの商品化を目指そう！
延命茶とそば粉を使った健康メニュー



延命茶入りバナナコッタ

地元のお菓子屋さんで
商品化が
決定しました！



信濃町立信濃小中学校
馬島 敦子 先生



地域の中で学ぶ「ふるさと学習」は、1年生から9年生まで発達段階に合わせ、それぞれの学年で取り組んでいます。本年度で4年目で、今後も9年間の体系化を目指しています。

「子ども模擬議会」はその一環であり、1年間の学習の集大成という位置付けでした。テーマを決めるまでには、映画を見たり、地元講師の方と交流したりしながら、事前学習に時間をかけました。テーマはあまり大きいと抽象的になってしまうので、大きな課題から等身大の課題にまで持ってくる必要でしたから。

ここで学習したことを心の片隅にとどめ、5年、10年、20年後、どこにいてもふるさとのことを大事に思い、ふるさとのために何ができるか考えてくれればよいなど、1年間子どもたちと一緒に学びながら強く思いました。

